



肌色
目録

*日焼け。

南 条 飛 鳥



NAN
240802

コドモの部が終わって
表通りから汗だくになった
コドモ達が散り散りに
散らばってゆく。

裏路地で少女を待ち構えている
のは素っ裸の男の群れ。
少女はその中に物おじせずに
進んでいく。

その少女は
人気のない裏路地へ
足早に歩を進める。

「今日は3人かあ、
おっけー♥
コドモの部第二部開始だねッ♥」
そう言々と少女は自分の
フンドシをほどき始める。



褐色と白い肌の
見事なコントラストの肢体。

その細く小さい
身体に無駄な肉は無く、
そして柔らかい。

少女は群がる男たちの
男根を、甘い鼻息を
響かせながら
その小さな身体の
小さな穴で
全て受け止める。

びゅるるる。
一人の男がうめき声をあげる
一度少女まんこ穴に
濃い精液を吐き出すと
名残惜しそうにペニスを
引き抜き
次の男に入れ替わる。

入れ替わり立ち代わりに
少女の身体の全ての穴に、
男たちは射精を繰り返す。
幼い穴独特の強烈な
締め付けでアツと言う間に
男たちは果てていく。

自身の小さな「穴」^{おまんこ}で
三人の男たちの
3回ずつの射精を
受け入れると少女は
「あー、残念。♥もう
ナカにおさまらないや。
今日はおしまいね♥」
と、明るい声でいった。

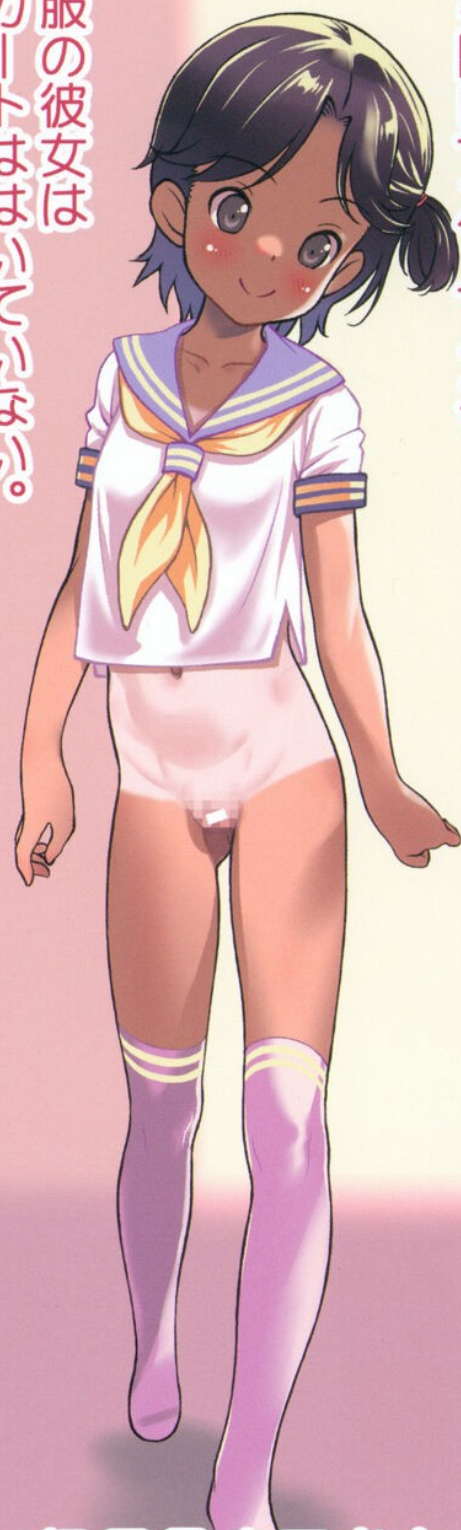
少女の穴からは
男たち3人分から
絞りだした大量の精子が
おさまりきれずに
だらしなく流れ出す。

少女は続ける
「来週、またお祭りあるよ？
今度は友達もつれて来るね。♥
来る？♥」
早速来週のスケジュールを
確保しなければ。

次の「祭り」が
待ち遠しい。



帰宅した少女は
扉を開けて入ってくる。



上着とニーソ、
上下の布の間に意図的に
むき出しにされた素肌は
「超越・絶領域」として
少女の下半身の
見事な「タテアスシ」に
男たちの視線を誘導し
釘付けにする。

制服の彼女は
スカートははいていない。
少女は下半身を
さらしたまま男たちの
前に進み出る。



少女は歯を見せて
セーラー服をめくりあげると
真っ白な肌で強調された
股間のスジと共にサクランボの様な
乳首があらわになる。

少女の汗の甘い臭いで
男たちの理性は吹き飛び
少女の身体に
むしゃぶりつく。
少女の体中を
隅から隅まで
味わい尽くそうと、

まずはその少女の
「こがねいろの素肌」に
白い精液をぶちまける。

「あッ♥くすぐりたい♥
うふふ♥
ボクの身体そんなに
気に入った？嬉しいな♥」
コロコロと鈴の鳴るような
甲高い愛らしい声を発する。

そしてなんと
「ボクっ子」だ。
なんというレア属性。
あまりにも興奮に
一度放ったペニスが
なえる暇なく一瞬で
再び硬さを取り戻す。



何度も何度も少女の穴に
男たちのペニスが
激しく出入りして
少女のナカを前後から
かき混ぜる。

「ボクっ子少女」の
鼻にかかった甘い声が
男たちをさらに狂わせる。

小さな身体で前後の穴で
ペニスを加えこむ。

気が付くと男たちはすでに
少女のおまんこに3巡ずつ
射精をしていた。

しかしそれでも男たちの
ペニスはおさまらない。

「ダイジヨブ
ボク、おじさんたちの
おちんちんと
あそぶの楽しいよ？
みんなでこの家に暮らすっ？」



ブピッ…♡
男がペニスを引き抜くと
下品な音が鳴り響く。
少女のおまんこはすでに
男たちの射精でドロドロだ。

男たちはすでに
会社に夏の長期休業を
申請していた。

気が付くとすでに外の日は
とっぷりと落ちていた。

「ふふふ♡
ボクすっごい嬉しいな♡
この後もたくさんおまんこ
おちんちんであそぼうね♡」

画像特典
ページ
QRコード



■おくつけ■

発行者：南条飛鳥

発行サークル：遺伝子の舟

発効日：2024・08・12

連絡先：Pixivのダイレクトメッセージにてたまわります。

●18歳未満の本書の購入及び閲覧を固く禁ずる。●空想と現実を分別のない方は読まないでください。●無断転載、南条の関与しない全ての画像複製を固く禁ずる。